

ホームページ「院長さん きいて！」への回答

「こどもは、今 12 歳で拓桃にてショートステイを定期的に利用しております。18 歳が見えてきて不安になっております。大人になってから泊まりでのお預かりしてくれる病院等が圧倒的に少ないからです。

そんな状況の中、18 歳以上の者の受け入れが難しくなるというのは、残念で仕方ありません。拓桃を利用していたのはこどもだけではなかったはずで、18 歳を超えても今までと変わらない医療を伴ったショートステイを可能にしてほしいです。

「病院、患者がメリットあるような形での運営は難しいのでしょうか？」

との投書に回答いたします。

当院ショートステイのご利用していただき

き、ありがとうございます。

不安な気持ちにさせておりますことを、申し訳なく思っております。

頂いたご意見を、短期入所に関わる職員で共有させていただきます。

短期入所に関しての相談や対応は、引き続き拓桃館ソーシャルワーカーまたは入退院センターへご相談いただけましたら、対応いたします。

よろしくお願いいたします。

病 院 長

ホームページ「院長さん きいて！」への回答

「本日も通院しまして、大変お世話になりました。ありがとうございました。

その中でひとつ、どうしても複雑な心境になったことがありました。

採血時、なかなか気持ちの切り替えが出来ない子供に、優しい声掛け等で接していただいた事には深く感謝しています。

また、身体をねじったり、起き上がろうとする子に対しての身体拘束はやむを得ないと思っています。

ですが、採血後に子供の下半身付近に目を向けた際、足の上に横向きに座り、押さえ付けていた看護師の方がいらっしゃいました。子供の足の上にお尻で座り、身体拘束することは一般的な事なのでしょうか？

今まで何年も通院していて初めて見る光

景だったので、逆に私が知らない事があるのかと感じました。

その場では子供が泣いていた為、気持ちの切り替えする事を優先にしましたが、後から思いかえすと何とも言えないモヤモヤした気持ちが残りました。また、後から子供が『注射もこわかったけど、足も痛かった』と話していました。私は子供の足の上に座った事がないので余計に疑問を感じました。

もし間違った身体拘束であれば、他のお子さんにはその様な事が無いよう、お願いしたいと思います。

今後子供達に寄り添う、安心安全な病院である様、願っております。」

との投書に回答いたします。

このたびは、職員の不適切な対応につきまして、不安や不快な思いをさせてしまい、

まことに申し訳ありませんでした。

今後このようなことがないよう再発防止に努めるとともに、身体拘束適正化に関する院内研修会にて再教育を行い、日々の看護でもチェック体制を強化いたします。

今後もお気づきの点がありましたら、その都度遠慮なく、病院職員にお申し出いただきますようお願いいたします。

病 院 長

ホームページ「院長さん きいて！」への回答

「予約を窓口でも取れるようにしていただけないでしょうか。病院に行って、職員さんに相談していても、『予約は電話で取ってくれ』と言われ、病院にいるのに予約が取れないなんてとてもどかしいです。電話をすると患者情報などの確認に時間がかかり、電話代はかかるし繋がらない時間帯も多く、とても面倒です。院内ならどこでもいきます、どこかの窓口で予約の変更や新規予約の相談をさせてもらえるようご検討いただけるとありがたいです。」

との投書に回答いたします。

予約変更に関して、ご不便をおかけして申し訳ありません。

当院に通院中の患者さんの多くは、診察・検査・リハビリテーション等の複数の予約を同一日に取得していることが多く、日程調整に時間を要することから、窓口で即時対応することは難しいと考えております。

外来受診後に院内にいらっしゃる場合には、当日受診された診療科の予約変更は対応させていただきますので、総合案内や外来受付などにお申し出ください。

なお、リハビリテーションのみの予約変更につきましては、リハビリテーション室に直接お越しいただいでご相談ください。

ご理解をいただきますよう、お願いいたします。

病 院 長

～ 感謝のお言葉をいただきました ～

「このたびは、入院中に親子ともに支えていただいたことへ感謝をお伝えしたく、投書いたします。

退院から年月が経ち、ふと入院中のことを思い返しました。

娘が生後間もない頃、病棟に入院し、私は 3 か月間付き添いました。

入院中、腰や背中のお痛みにお悩み、抱っこやお世話が思うようにできませんでした。退院後の検査で、背骨の骨折（妊娠後骨粗しょう症による脊椎圧迫骨折）と分かりました。

当時の私は『親として、ここにいる意味がないのでは…』と落ち込んでいました。そんな時、保育士さんに『抱っこできなくても、ふれあい遊びや添い寝、優しい声かけ、そばにいただけでも、ちゃんと伝わっていますよ』と仰っていただきました。

また、子ども療養支援士さんが私の話を聞いて寄り添ってくださり、娘のためにメリーを用意していただいたことも大切な思い出です。

ある朝、看護師長さんから『昨日は足の点滴が外れたので、みんなで抱っこしていたんですよ』と教えていただき、改めて娘が多くの方に見守られ可愛がられていたことを知り、とても嬉しく心が温かくなりました。今の私は『あなたは赤ちゃんのとき、たくさんの人に抱っこしてもらって育ったんだよ』と娘に話しています。

退院して3年経ち、娘は元気に成長し、昨年は治療も無事に終了しました。改めてお礼申し上げますとともに、ご報告させていただきます。

病棟の皆さま、他の診療科の先生方、助産師さん、作業療法士さん、保育士さん、子ども療養支援士さん、清掃スタッフの皆さまに心から感謝しています。

本当にありがとうございました。」

ご丁寧に投書をいただきまして、ありがとうございます。

お嬢さんの元気な成長と治療の終了をお知らせいただき、とてもうれしく思っております。頂いたお言葉は、各職種の職員へ伝えており、日々の業務の励みとしております。

これからも、お子さんやご家族様に寄り添い、質の高い医療と療育を提供できるよう努めてまいります。

お嬢さんやご家族様が、これからもお健やかに過ごしになられますことを願っております。

病 院 長